



こうじのうきのうしょう 高次脳機能障がい

交通事故などによる頭部外傷や、脳出血・脳梗塞などの脳血管疾患、低酸素脳症などの病気が原因で脳が損傷し思考・記憶・注意・行為・言語などの脳機能の一部に障がいが出た状態をいいます。脳の受傷部位や受傷の程度により、症状のあらわれ方や程度が異なります。

障がいの状態

記憶障がい …… さっき言ったことを忘れていて、何度も同じ間違いを繰り返すなどの症状

注意障がい …… 注意散漫で他の刺激に気を取られやすく、集中力が続かないなどの症状

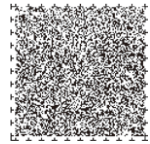
遂行機能障がい …… 計画を立てて物事を実行することができないなどの症状

社会的行動障がい …… 感情のコントロールが難しく急に怒りだすなどの症状

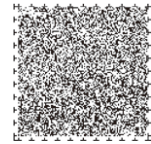
失語症 …… ことばが出にくい、相手の話が理解できないなどの症状

失行症 …… 麻痺などの運動障がいはないが日常的な動作がうまくできないなどの症状

失認症 …… 見えている、きこえているのに認識できないなどの症状



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



配慮

こんなサポートがうれしい!

障がいがあることを理解してください。

外見からは分かりにくいので、周囲の理解が得られなかったり、本人自身も障がいを十分に認識できなかったりすることがあります。日常生活や仕事、対人関係などの面で、病気やけがの前と同じことができず、自信をなくし不安になりやすいことを知ってください。

感情のコントロールが難しいときは気分転換をさせてください。

行動や感情を適切にコントロールすることができなくなる場合があります。イライラして怒りっぽくなっていたり、落ち着きがなくなったり、疲れているように見える場合は、休憩して気分転換するよう促してください。

1日の予定などが紙に書いてあると行動しやすくなる場合があります。

記憶力などが不十分なことに配慮してください。作業のチェックリストや機械の使用法、1日のスケジュールなどが紙に書いてあると行動しやすくなります。また、周りの人から別々のアドバイスをされると混乱するので、情報共有をした上でのサポートをお願いします。

コミュニケーションのサポートをしてください。

話をきいていても、内容が理解できず集団の中で取り残されたり、ほかの人に伝達することができず誤解が生じたりする場合があります。話の輪に入れるよう配慮したり、間に入って理解を助けたりしてもらとうれしいです。

事例

たとえば、こんなことがあります。

病気やけがの後遺症で高次脳機能障がいになった方が、高次脳機能障がいの発症前の職場に復帰した際、記憶障がいや注意障がいなどのため、「以前と同じようなペースで仕事をするのが難しい…」と悩んでしまう場合があります。周囲の理解が得られないと状況が悪化することもあります。本人の状態に合わせて仕事の内容や量を調整したり、一緒に作業したりするなどの配慮をしてください。



周囲のサポートを得て働いています

※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。